

都田  
市園

氷川  
HIKAWA

小さなまちで、大きな幸せを感じる



## INTERVIEW

自然と人のぬくもりに惹かれて。  
氷川町で見つけた、家族の「ちょうどいい」暮らし。

宮田 妃奈莉さん・悠河さんご家族

令和5年に氷川町へと移住されました。「一軒家に住みたい」という希望のもと、さまざまな地域を検討した中で出会ったのが、氷川町の空き家バンクの物件。自然に囲まれ、リフォーム済みで住み心地もよく、なによりご近所の方々がとても温かく迎えてくれたことが、決め手になったといいます。「川遊びをしたり、庭でバイクをいじったり。人の目を気にせず、自分たちらしく過ごせるんです」と悠河さん。「野菜や果物をおすそ分けし合う暮らしが楽しいです。ご近所の皆さんがまるで親戚みたいに接してくれます。子どもも本当の孫のように可愛がってもらっています」と妃奈莉さんも笑顔で語ります。氷川町の手厚い子育て支援も大きな魅力のひとつ。出産後すぐに受け取れるクーポンや医療費助成など、経済的にも精神的にも支えられていると実感しているそうです。「空気がきれいで、自然が身近で、地域の人々も温かい。氷川町は、子どもを育てるには本当にちょうどいい場所だと思います」穏やかな自然と、やさしい人のつながりに囲まれて。お二人の理想の家族のかたちも、少しずつ育っています。



氷川町での暮らし

移住定住



## 氷川町の移住定住支援制度

### 支援制度一覧

氷川町では、移住をしてこられた方に対し様々な支援を行っています。詳しくは、移住定住サイト「ひかわ暮らし」をご覧ください。



### 移住体験住宅

移住を検討中の方々に、氷川町での暮らしを気軽に体験していただけるよう、家具や家電が完備された移住体験住宅をご用意しています。新しい生活を始めるためのサポートとして、ぜひご利用ください。

### INTERVIEW

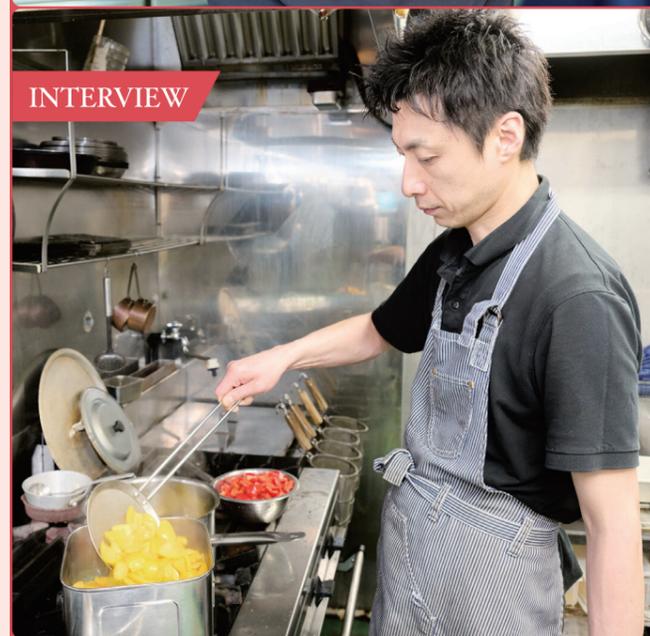


「やってみよう」を  
後押ししてくれるまち、氷川町。

増住 光紘さん 自営業(spice and harb masu)

福岡や沖縄、ハワイなど全国の飲食現場で腕を磨いてきた増住光紘さんが、地元・氷川町に戻ってきたのは2022年。きっかけはコロナ禍、親のこと、そして「今だ」と感じたタイミングでした。「正直、氷川町にお店を出すとは思っていませんでした。でも空き家バンクや創業支援など、“やってみよう”を後押ししてくれる制度があった。何より、人があったかいです」店の改装は自ら手を動かし、地域の材木屋さんや大工さんにも協力を仰ぎました。食材もできるだけ地元のものを使い、とうもろこし、いちご、メロンなど、季節ごとに“氷川らしい味”をメニューに取り入れています。「ここだからできることがある。派手じゃなくても、面白くて心地いい。それが氷川町ですね」

### INTERVIEW



氷川町は、夢をカタチにできる  
環境が揃っています。

山田 啓一郎さん  
自営業(イタリアンレストラントラットリア パッシオーネ)

令和元年、大阪から祖父母の家があった氷川町へ移住し、念願の自分の店を開いた山田さん。開業の地に選んだのは、かつて居酒屋として使われていた空き物件。「この物件を使おうと思えたのは、氷川町の補助制度があったからです。町内の業者さんを使えば、改装費の支援を受けられる仕組みがあって。それが本当に大きかったですね」と振り返ります。外装や内装を自分のイメージに合わせて一新し、イタリアンレストランへと大変身。地元食材を活かした料理と居心地のよさが評判を呼び、口コミで来店客が広がっています。「小さな町だからこそ、制度も届きやすいし、動きも早い。自分のやりたいことが、ここなら形にできると感じましたね」と手応えを語ってくれました。